特集 英語を使う技能の育成

書く力を伸ばす
——THINK ABOUT IT, WRITEについて

池野　修（愛媛大学）

NEW CROWN の中で「書く」ということに深く関連した活動が THINK ABOUT IT と WRITE です。THINK ABOUT IT は，教科書レッスンの内容を利用して，自分の考えを書いて表現することに少しずつ慣れる，また WRITE は，まとまった時間を使って，しっかりした内容の英語メッセージを作成する，というねらいを持った活動です。

1. THINK ABOUT IT について：4 技能プラス 1 ＝「考える」

THINK ABOUT IT は，レッスンの内容を振り返り，レッスン内容に対する自分の感想や意見を話したり書いたりする，「考える」活動です。この活動には次の 3 つのねらい・意義があります。

① レッスンのテーマや題材の内容について「考える」ことを奨励します。*NEW CROWN* にはインパクトのある題材，生徒の感性に働きかけたり，思考を促したりする題材が多く含まれています。THINK ABOUT IT は，レッスンで扱われたテーマに関連して，生徒が感じたこと・考えたことを深化させ，表現させることをねらいとしたコーナーです。

② レッスンで学んだ事柄の振り返りを促し，学習した言語材料の定着をより確かなものにすることができます。これは，THINK ABOUT IT が学んだレッスン全体をもう一度読み返さなければ出来ないように作成されているからです。

③「書く」活動の補充になります。レッスン本文のパートでは，「読む」「聞く」「話す」が中心になりがちであり，相対的に少なくなる傾向にある「書く」（単に文字を書く・英文を写すのではなく，自分でメッセージを作って英文で表現する）活動をこの THINK ABOUT IT でも行うことができます。

一例として，2 年生の LESSON 3: At the Zoo を見てみましょう。このレッスンは動物園で見たスマトラトラを手がかりに，世界で絶滅に瀕している種について考える内容ですが，課末の THINK ABOUT IT は，本文を参考にして，自分たちが動物を救うために「できること」や「やらなければならないこと」は何かを考え，We can ..., We must ... を使って述べる，という活動になっています。このような課題を行うことで，レッスンで学んだ内容をもう一度吟味するとともに，can や must といった助動詞が，単なる習得すべき文法事項としてではなく，自分が考えたメッセージを表現する媒体として意味を持ってきます。

NEW CROWN には中学で学ぶ生徒にとって意味の大きい題材が多く含まれています。優れた題材に触れると，心が動き，伝えたい・書きたいという気持ちになります。THINK ABOUT IT は，この気持ちをうまく利用して自己表現に発展させることを目指しています。

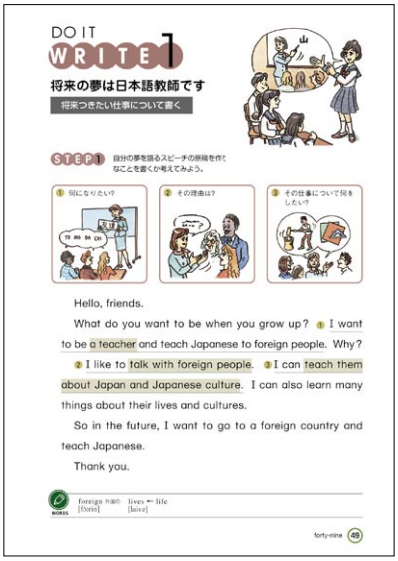
よく，英語は「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能からなると言われますが，「人間教育の一環として行う英語教育」という視点に基づき，*NEW CROWN* ではこれに 5 番目の要素「考える」を付け加えて教科書を作成しています。いかにうまく英語が話せるか・書けるかだけではなく，「何を伝えるか」，つまり伝達内容やメッセージを重視する，英語の「習得（定着）」だけではなく，それに基づいた「思考」や「表現」にも重きをおく——これは *NEW CROWN* がずっと大切にしてきた方針です。

2. WRITE について

WRITE は，文字通り「書く」活動です。このラ

NEGISHI MASASHI
SHIGEMATSU YASUSHI
IMAI HIROYUKI
MIKAMI AKIRA
TACHIBANA CHIHIRO
IKENO OSAMU

イティング活動は，各学年で2回ずつ，集中的に行えるように *NEW CROWN* は編集されています。中学校では英語を話す・聞く活動に重点が置かれるのは確かですが，自分の考えや思いを書いて表現するという活動も，伝えたい内容を論理的に整理したり，考えを深めたりする意味で大変重要なものです。また，これからの時代は，英文メールの交換など，英語を書いてコミュニケーションを行う機会も増えてくると考えられ，中学校でその基礎能力を養っておくことが必要です。


DO IT WRITE 1

将来の夢は日本語教師です

将来つきたい仕事について書く

STEP 1 自分の夢を語るスピーチの原稿を作ってなにを書くか考えてみよう。

① 何になりたい？ ② その理由は？ ③ その仕事について何をしたい？

Hello, friends.

What do you want to be when you grow up? ① I want to be a teacher and teach Japanese to foreign people. Why? ② I like to talk with foreign people. ③ I can teach them about Japan and Japanese culture. I can also learn many things about their lives and cultures.

So in the future, I want to go to a foreign country and teach Japanese.

Thank you.

WORDS foreign 外国の [fɔ́ːrən] lives ← life [laɪv]

forty-nine 49

STEP 2 WORD BANK を参考にして，モデル文の下線部を自分のことにかえて書いてみよう。

① ② ③

TRY チャレンジしてみよう

1 上で書いた3つの文を使って，スピーチを書いてみよう。
[STEP 1 のモデル文や WORD BANK も参考にしよう]

2 完成した原稿を覚えて，クラスで発表しよう。発表するときには次のようなことに注意しよう。
[大きな声・笑顔らしい表情・アイコンタクト・スマイル・ジェスチャーなど]

WORD BANK

① a doctor 医者 an interpreter 通訳 a vet 獣医
② help people 人びとを助ける learn languages 言語を学ぶ
be with animals 動物といっしょにいる
③ work in places without doctors 医者のいないところで働く
make a better world よりよい世界をつくる
save sick dogs and cats 病気のイヌやネコを救う

50 fifty

WRITE には次のような特徴があります。

① まず，現実的な言語使用場面を設定することで，生徒にとって活動の意義が感じやすいライティング活動になっています。*NEW CROWN* で取り上げている WRITE のテーマをいくつか見てみると，「カードを書こう―休み中のできごとについて書く」，「将来の夢は日本語教師です―将来つきたい仕事について書く」，「ホストファミリーへのＥメール―問い合わせのＥメールを書く」，「いちばんの思い出―3年間の忘れられない人（こと）について書く」などのようになっています。英文手紙や英文メールを扱った WRITE は，生徒が将来実際に出会うであろう言語使用場面を設定して行う活動になっています。このようにすることで，生徒にとっても書く活動の意義や自分の将来のニーズへの関連性が見えやすくなり，活動への意欲が高まります。また，夏休み明けや中学校最後の時期など，自分が体験してきたことを振り返ったり，思い出をまとめたりするのにふさわしい時期に，関連する WRITE の活動が用意されています。

② 書くプロセスを3段階に分けて丁寧に指導ができるように工夫がされています。

STEP 1　モデル文を参考にして，書く内容を考えます。このステップでは3つの質問が提示してあり，それらに答えていくことで，自然に書く内容を作ることができる，考えた内容を整理することができるようになっています。

STEP 2　モデル文の該当箇所を自分のことに置きかえて英文を書きます。型が決まっている部分なので，英語が苦手な生徒でも比較的スムーズに英文を書くことができるようになっています。

STEP 3　「TRY―チャレンジしてみよう」と名づけられたステップで，STEP 1 と STEP 2 をベースに，まとまりのある英文メッセージ（多くはスピーチ）を作り，それを発表します。STEP 2 で作った部分に自分なりの英文を加えることで，オリジナルのメッセージを作ります。

このように書くという活動を細分化することで，生徒は最終的なゴールとそれに至るステップのサブ・ゴールを明確に意識しながら，段階的に英文を作っていくことができます。

このように，*NEW CROWN* は，THINK ABOUT IT と WRITE というコーナーを設けることで，(1) 学習した言語材料のさらなる定着を図る，(2) 題材に関連する内容について，考えの深まりを促す，(3) 文字による実践的コミュニケーション能力の基礎を養う，(4) 英語で書くことによって，豊かな自己表現体験を持たせる，などの目標の達成を目指し，効果が大きくなるように様々な工夫を凝らして活動をデザインしています。